



★三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所
★三八畜産衛生協議会

豚流行性下痢(PED)の防疫対策を徹底しましょう！

豚流行性下痢(PED)は、例年気温の低下する冬季に発生が増加する傾向にありましたが、今シーズンはすでに全国で**40農場での発生**が確認されており、**大発生が見られた平成25年を超える勢いで発生しています。**

昨年7～9月のワクチン接種率は**4割を切っており**、免疫が適切に付与されていないことが本病拡大の一因であると推測されています。

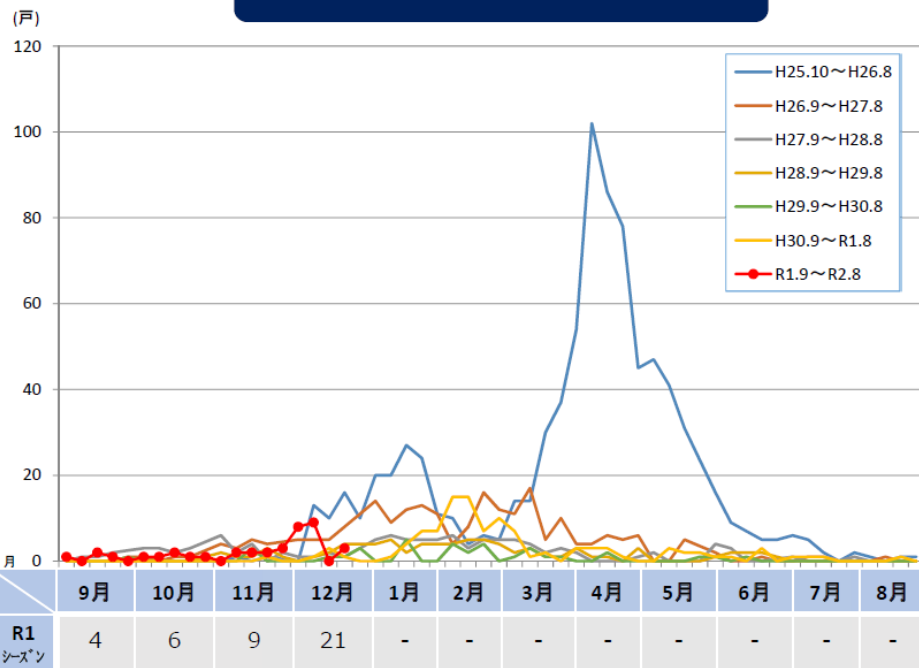
引き続き、農場に出入する車両の消毒、導入豚の健康観察を徹底するなど、予防対策をお願いします。また、**積極的なワクチン接種**を実施してください。

本病を疑う豚を発見した場合は、**直ちに家畜保健衛生所に通報**してください。

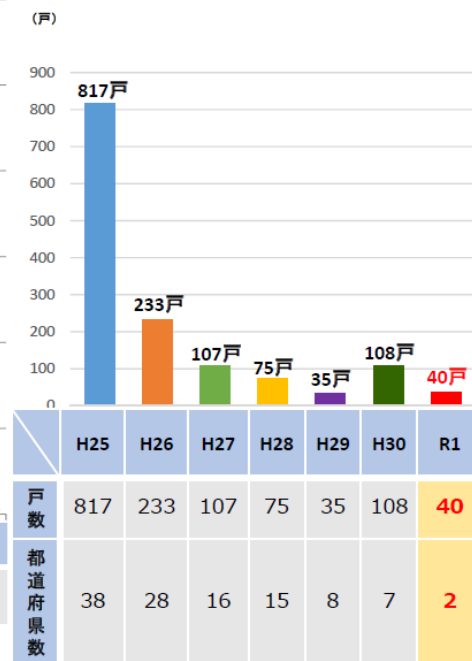
豚流行性下痢(PED)のシーズン毎の発生農場数の推移

農林水産省
消費・安全局動物衛生課
令和2年1月6日 現在

月別の新たな発生農場数



各シーズンの
累計発生農場数



(注)検査で確定した月の発生戸数。

三八地域県民局地域農林水産部 八戸家畜保健衛生所
TEL: 0178-27-7415 FAX: 0178-27-7418
日祝祭日の場合は、家保携帯 090-7069-7714

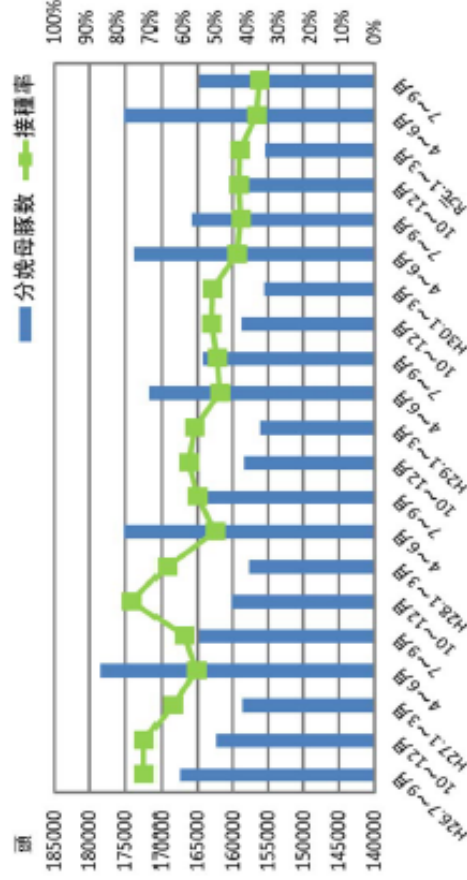
豚流行性下痢（PED）のワクチン接種率の推移について（推定）

- PEDワクチンの接種率は、ワクチンの円滑な供給対策を実施してきた平成26年5月以降、概ね6割で推移していましたが、直近では4割前後と推定されます。
- 本病の被害低減（子豚の損耗防止）のためには、豚舎消毒等の飼養衛生管理と併せて、平時から継続的に妊娠母豚に対しワクチンを使用することが重要です。（「豚流行性下痢（PED）防疫マニュアル」（平成26年10月24日付け消費・安全局長通知）の7. ワクチンを参照）

（参考） 接種率＝ワクチン販売数÷要接種母豚数（推定）×100

	分娩母豚数	要接種母豚数	ワクチン販売数	接種率
平成27年 7～9月	164,814	329,627	196,873	60%
10～12月	160,234	320,469	241,342	76%
平成28年 1～3月	157,685	315,370	204,755	65%
4～6月	175,208	350,417	175,284	50%
7～9月	164,573	329,145	182,912	56%
10～12月	158,375	316,749	183,866	58%
平成29年 1～3月	156,128	312,256	176,114	57%
4～6月	171,539	343,078	166,839	49%
7～9月	164,304	328,608	161,784	49%
10～12月	158,791	317,581	162,354	51%
平成30年 1～3月	141,413	282,826	157,962	51%
4～6月	173,747	347,494	149,719	43%
7～9月	165,852	331,705	138,899	42%
10～12月	160,226	320,451	136,808	43%
令和元年 1～3月	155,512	311,025	131,011	42%
4～6月	175,168	350,335	136,808	37%
7～9月	164,778	329,557	116,807	36%

分娩母豚数とPEDワクチン接種率の推移（推定）



資料：畜産物流通調査、平成21年度養豚基礎調査全国集計結果、畜産安全管理課調べ

【注】

- ・ 分娩母豚数：平成23年11月以降のと畜頭数から、離乳後の事故率（9.6%）及び平均離乳頭数（9.2頭）を考慮して推定
- ・ 要接種母豚数：分娩母豚数に接種回数（2回）を乗じた数。
- ・ ワクチン販売数：平成27年2月までは農家からの受注数、平成27年3月以降はメーカーからの出荷数より推計。また、接種時のロス等を考慮せず、全て接種されていると仮定。